

# 平成30年度 上田市立丸子北中学校 自己評価シート

学校教育目標	めざす子どもの姿(中期的目標)	総合評価			
1 自ら考え、進んで学習する生徒(自主) 2 思いやりのある、心豊かな生徒(友愛) 3 明るく健康で、粘り強い生徒(鍛錬)	1 自分の課題を持って主体的に追究できる生徒(自主) 2 明るい挨拶ができる生徒(友愛) 3 よりよい生活態度の中で自分を成長させ続ける生徒(鍛錬)	(1)上半期は、全学年とも集中して日々の学習に取り組むことができているが、中には受動的な姿勢も見られる。各教科の学習に生徒が主体的に臨めるよう、さらなる授業改善が学校職員の下半期の課題である。  (2)校内では、友だち同士、または、教職員に対して多くの生徒が爽やかな挨拶を交わす姿が見られる。一方、地域からは「声が小さく、挨拶に元気が無い」との指摘もあり、さらに「明るい挨拶ができる生徒」を目指し、表現力の向上を目指していきたい。  (3)学校全体が落ち着いた雰囲気の中でスタートできている。また、運動部、文化部ともに目標に向かい熱心に活動し、各種大会やコンクールで成果が上がっている。一方、心無い言葉により傷つく生徒もおり、生徒、教職員ともにさらに人権感覚を磨いていきたい。			
	今年度の重点目標	成果と課題	総合評価	改善策・向上策	
	1 授業に向かう姿勢づくりや家庭学習の習慣作りに努めている。	(1)学級長が実施してチャイム着席調べを1・2学期実施し時間の厳守や授業の準備ができる生徒が増加している。教科担任と各学年が連携しながら粘り強く支援してきた成果が見られた。全学年で意欲的に取り組めない生徒に対する個別指導が課題である。 (2)「紡ぐ」を利用し家庭学習の様子から家庭学習の時間の向上に向けて指導してきた。2学期となり「家庭学習」の時間と内容は生徒間での差が大きくなっている。家庭とも連絡を取り合いながら習慣作りにすすめる必要がある。			
	2 中学生にふさわしい、けじめのある健やかな生活を築く。	(1)生徒の活動場所に職員が積極的に出向いて指導することを継続している。 (2)授業中の私語目立つ生徒や授業を受ける態度が整わない生徒も各クラスで見られるので、教員によるこまめな声がけや家庭と連絡を取りつつ個別に指導を行っている。			
	① 「15分入室」「集会のスタート」「チャイム着席」など「時を守る」生活をさせようとしたか。	朝の昇降口指導や下校指導に職員が協力し指導している。また、学年棟の廊下で職員が時間を守るように指導している。時間を守る意識がほぼ定着してきた。チャイム着席についても「教科連絡カード」を利用しほぼ定着している。			
	② 「挨拶」「礼儀」「身支度」など基本的な生活習慣を身に付けるよう努めたか。	身支度を整えることに課題のある生徒には全職員で声がけを行っている。また、生徒会の活動ともタイアップして生徒からの呼びかけも多々していききたい。			
	③ 「無言清(静)掃」の指導に力を入れたか。	今年度は、全校が黙想を廊下で行うことにした。教師主導ではなく、清美委員にリーダーシップをとらせ、黙想時から移動時の無言を特に重点に呼びかけることにより、その後の清掃活動時でも無言で取り組むことができるようになってきた。さらなる向上を目指し、検討していきたい。			
3 生徒会活動を充実させ、自分たちの生活は自分たちで解決・充実していく実践を行わせる。	各委員会の副委員長も表で活動する機会を増やした。今後、正副委員長で連携を取って、生徒会活動の質を高めていきたい。また、生徒会企画の計画や委員会活動の見通しなど、役員にしっかり計画を立てさせ、実行していきたい。				
① 互いの思いを伝え合う「朝の会」「帰りの会」「学級活動」「道徳」の工夫が為されている。	(1)年間行事や活動の見通しをもとにして学年会において計画を立て、学級活動を推進している。(2)年に2～3回のQ-U検査を行い、集団作りや生徒の変容を見て参考にしている。今後、特別教育支援教育の「合理的配慮」の視点を活かしたユニバーサルデザインの工夫を進めていきたい。				
② 生徒会独自の取り組みを促し、全職員で支援したか。	活動は生徒主体で行ったが、見通しを持って計画を立てる点で課題があった。また、生徒会企画の「ノーチャイムデー」や「ボランティア清掃」等、生徒主体で行えたものも多かったが、企画の検討が十分に行えなかったものもあった。職員会などでしっかりと内容を検討した上で生徒との連携を取れるように支援していきたい。				

領域	評価項目	評価の観点	成果と課題	総合評価	改善策・向上策
教育課程	道徳教育の充実	学年の計画を基に実践と評価を繰り返し指導を行うと共に、いじめの防止・早期発見・指導ができたか。	(1)各学年の道徳の時間において、人権・個性尊重の精神に焦点を当てた授業を行うことで、互いの違いを認め、いじめを許さない集団作りを行っている。 (2)各教科における道徳教育の内容を明確にし、その質を向上させたい。		
	キャリア教育の充実	学年に応じて目標を持たせるキャリア教育が進められているか。	2学年の職場体験学習や3学年の「ものづくり未来塾」、進路講話等、各学年により自分の将来の設計をさせると共に職業意識を高めることができた。さらに、各教科や教育相談においても進路を意識させたい。		
教育活動	生徒が「分かった」「力がついた」と実感できる授業の創造	生徒の実態、学級の実態を把握し、その状況にあった授業方法の改善に努めている。	基礎学力の定着が図れるよう、わかりやすい授業、板書の工夫や「聞く」「話す」「考える」活動の時間明確化、時間を保証し、安心して活動に取り組めるよう授業を工夫している。また、タイムタイマーの活用等、生徒実態にあわせ、学習展開を工夫していく。		
		教材を工夫したり学び合いの場を設定したりするなど、わかりやすい授業づくりに努めている。	(1)DVD教材やパワーポイントを利用した資料の提示等、生徒実態や興味に合わせて工夫している。 (2)「ペア学習」「グループ学習」を取り入れながら、さらに、生徒が学び合う意識を高められるよう積極的取り組んでいる。		
	学習カードや振り返りの場面を設定し、学力の定着の見届けを丁寧に行っている。	授業開始直後の計算、漢字ドリルの実施や終末で学習カード、またはノートで本時に学習した内容を簡単にまとめる等の活動を行っている。結果、各教科で振り返りの時間を大切にすると雰囲気が出てくる。今後、学力の定着の見届けのための方策を考え実施していく必要がある。			
生徒指導	カウンセリングマインドを基盤とした生徒指導	生徒相互の良さを認め合う活動や温かい言動が取れる教育を行っている。 教育相談や進路相談を含め、生徒の思いをくみ取る活動が為され、家庭と連携して指導しているか。	学校・学級の約束(教室掲示4項目)を大事にし、学級活動や授業を行っている。教師がその良い模範となるようにさらに意識して取り組んでいきたい。 教育相談で活用する「学校生活アンケート」を活用するなど生徒の変化に気づけるように努めている。また、学級には入れなくなっている生徒や特別支援を必要とする生徒の家庭とは定期的に支援会議を行い、情報を共有している。		
	全職員が共通理解し、システムで指導できる体制	報告、連絡、相談の体制は、係を中心に系統的に機能しているか。	学年会や生徒指導係会・不応係会・教務会・職員会議で生徒の状況や指導および支援の方向等の情報を共有化している。さらに細かな事案であっても関係職員で情報を共有しあっていたい。		
学校運営	開かれた学校	地域の方が喜んで来校する「丸子コスモス大学」「北中CS」の運営の工夫ができたか。	(1)15学科全てにおいて、6回の授業から秋桜祭までの修業式までスムーズな運営ができた。次年度に向け学科の見直しは課題である。 (2)今後、「北中CS」の運営方法について、さらに地域と生徒会が連携できるよう工夫が必要である。		
	地域での親子作業、お年寄りとのふれあい集会の充実	地域の実態や思いを理解し、集会や作業へ生徒が意欲的に参加できるよう働きかけたか。	(1)それぞれの地区生徒会や福祉委員会が中心となり、地域の実態に合わせて活動できた。 (2)今後も「北中CS」と連携しながら地域での催し物や集会等への参加や活動方法など工夫していきたい。		
	PTA活動の充実	担当部はPTAと協力して意義ある活動ができたか。	(1)地区の実状に応じて親子作業や敬老会等充実した活動ができた。 (2)生徒数の減少に伴った組織や会議、役員選出のスリム化を図り、負担感の軽減による参加しやすいPTAを進められた。		
	各種研修の充実	研修で学んだことを生徒に還元できたか。	各種研修会に参加した職員を中心に、全職員が情報を共有し研修を深めることができた。今後、さらに研修機会に積極的に参加し、職員自ら研鑽を積んでいきたい。		

○ 評価基準 A・・・達成できた B・・・おおむね達成できた C・・・やや達成できなかった D・・・達成できなかった